

二〇八四二四	昭和十一年六月一日法律第三十六号ニ依リ賃貸価格ヲ改訂シ次欄ニ改記ス	昭和七年七月二八日	那覇市西本町四丁目	古賀善次
六二五	昭和三十一年八月二日地積誤謬訂正ニ付登記所ヨリ通知ニ依リ訂正次欄ニ記載ス	一九六四年七月十日	名義人表示変更	
四一六				
二六一〇〇〇				
五二二				

官有地拝借御願

沖繩県琉球国那覇西村二十三番地
平民 古賀 辰四郎

私儀国内諸種ノ事業ノ日二月ニ隆盛ニ赴キ候割合ニ大洋中ニ国ヲ為ス国柄ナルニモ係ラス水産業ヲサレハ予テ憂ヒ居候次第ナレハ自ラ帆船ノ勞ヲ取り明治十二年以降十五年ニ至ルマテ或ハ琉球ニ或ハ朝鮮ニ航シ専ラ海産物ノ探検ヲ致候以來今日マテ居ラ沖繩ニ定メ尚ホ其業ニ従事致居候更ニ業務拡張ノ目的ヲ以テ沖繩本島ノ正東ニ在ル無人島ニシテ魚介ノ群常ニ絶ヘサル大東島ニ組合員ヲ送り一方ニ於テハ農事ヲ勤メテ日常食料ノ窮乏ヲ防キ一方ニ於テ大ニ其地海産

物ノ捕漁ヲ為サントシ已ニ明治廿四年十一月廿日時ノ沖繩県知事丸岡莞爾氏ニ同島開墾ノ許可ヲ得タル次第ニ御座候是ヨリ以前明治十八年沖繩諸島ニ巡航シ舟ヲ八重山島ノ北方九拾海里ノ久場島ニ寄セ上陸致候処因ラスモ俗ニバカ鳥ト名ノル鳥ノ群集セルヲ発見致候止マリテ該鳥ノ此島ニ棲息スル有様ヲ探究仕候秋来リテ春ニ去リ巢ヲ営ムヲ以テ見レハ全ク此期間ハ其繁殖期ニシテ特ニ該島ヲ撰テ来ルモノナル事ハ毫モ疑無御座候予テバカ鳥ノ羽毛ハ欧米人ノ大ニ珍重スル処ト承リ居候間試ニ数羽ヲ射殺シ商品見本トシア其羽毛ヲ欧州諸国ニ輸送仕候頗ル好評ヲ得其注文マテ有之候是ニ依テ考ヘ候ニ右羽毛ハ実ニ海外輸出品トシテ大ニ価値アルモノト信セラレ申候尤モ輸出品トシテ海外ノ注文ニ応スルニ足ル数量ナルヤ否ヤヲモ探

究仕候処捕獲ノ方法ニ因リテハ相当ノ斤量ニ於テ多年間輸出致候ニ差支無キ見込有之候以上ノ次第柄ニ付宜ニ其捕獲ニ従事致度考ニテ候処甲乙ノ人々ニ聞知セラレ競フテ乱殺候様ノ事ニ立チ至ルベク自然多人数間ニ分チテ輸出ノ業ヲ営ミ候ハ相互ノ利益ニアラス所謂虻蜂共ニ獲ラレザル結果ニ成行キ可申恐有之候間バカ鳥羽毛輸出營業ノ目的ヲ以テ久場島全島ヲ拝借候様出願ニ可及ノ処右久場島ハ未タ我邦ノ所属タル事判明無之由ニ承知仕候故今日マテ折角ノ希望ヲ抑制致居候是レ見本送達ノ際欧州ノ注文アリタルニ係ラス之ニ応スル能ハサリシ以所ニ御座候然ルニ這度該島ハ劃然日本ノ所属ト確定致候趣多年ノ願望ニ投ジ申候

一、久場島バカ鳥ノ数量多キハ即チ多キモ無限ノモノニ無御座候故捕獲ノ自由ヲ各人ニ与ヘラレ候得ハ必ス右捕獲ニ競争起リ甲乙ノ得ル処兩々共ニ少量タル可ク到底之ヲ貿易品トシテ海外ニ輸出スル能ハサル様相成可申候是レ能ク外邦華主ノ注文ヲ満足スル所有ナキ故ニ御座候

二、一人ノ利ヲ收ムルヲ見多人数必ス相競フテ同島ニ航シ之ヲ捕獲スルニ至ル可キハ明ニ御座候已ニ其数量ニ限アレハ甲乙共ニ其捕獲スル処少カラサルヲ得サル次第ナレハ共ニ收支ノ相償フ能ハサル結果ヲ生スヘク候尤モ收支ノ償ハサルハ終局自ラ一二ノ人ニ捕獲ノ特權ヲ与ヘラレタル如キ有様ニ帰復ス可キモ有限ニシテ且ツ感能アル鳥獸ニ対シテ之ヲ俟ツ可カラス候

三、捕獲ノ競争場ニハ保護ノ念ハ聊カモ見ラレサルモノニ候故各々努メテ種々鋭利ナル狩獵具ヲ用キ或ハ鳥ノ胆ヲ驚カシ再ヒ該島ニ来ラサルニ至ル可ク又或ハ老稚牝牡ノ別ナク之ヲ捕獲候様ニ

相成大ニ繁殖ノ妨害ヲ生スルニ至ル可ク候

四、バカ鳥ノ来ルハ其繁殖期ニ御座候此期ヲ以テ之ヲ捕獲競争場裡ニ投シ候得ハ宜ニ其種類ヲ、滅殺スルニ至ル可キハ明ニ御座候是レ此期節ハ総シテ鳥獸ヲ捕獲スルニ最モ容易ナルカ故ニ御座候

五、巢中ニ在リテ卵子ヲ孵化シツツアル若クハ稚雛ヲ哺育シツツアル母鳥ヲ殺スモ捕獲競争者ノ元ヨリ意ヲ置カサル処為メニ全然繁殖ノ途ヲ杜絶セシム可ク候

以上ハ自由捕獲ニ必ス相伴ツテ明ニ生シ来ル可キ恐ニ御座候得共該鳥捕獲ノ目的ニ於テ全島拝借仕候様ノ事ニ相成候得バ充分該鳥ノ保護モ立チ行キ人工ノ以テ助ク可キアラハ之ヲ加ヘテ更ニ繁殖ノ途ヲ開キ自ラ将来永ク海外ノ輸出品トシテ数ヘラルルニ至ルヘキ事ト被存候繁殖ノ途ヲ杜絶セシメサルノミナラス更ニ其増殖ノ方法ヲ設ケ候ニハ先ツ遺憾ナキ充分ナル保護ノ道ヲ相立候事最モ肝要ノ義ト存候從テ營業上ノ必要ト併セテ該島ニ移住定居候様ノ事ニ相成可申候右様致候ニハ是非共該島一円ヲ拝借不致候テハ到底其満足ナル成果モ期シ難キ次第ニ付官有財産管理規則第七條第二項ノ規定ニ依リ何卒久場全島拝借ノ義御許可相成度別紙同島略図相添此段奉願上候也

明治二十八年六月十日

内務大臣子爵 野村 靖 殿
古賀 辰四郎 ⑥
廿八西第三九二号
右願出候ニ付奥書仕候也

明治廿八年六月十一日 沖繩県
那覇西村主取 照屋 興行 ㊦
廿八八第九九五号
右奥書仕候他

明治廿八年六月廿六日

沖繩県八重山島頭 宮良 当宗 ㊦
同 喜舍場 英 詳 ㊦
同 大浜 用能 ㊦

日本帝国褒章ノ記

(明治四十二年十一月二十二日裁可)

沖繩県那覇区字西 古賀 辰四郎
安政三年一月十八日生
資生温良夙ニ海事思想ニ富ミ明治十二年福岡県ヨリ移住シ那覇ニ本
店ヲ置キ爾來殖産ノ業ニ從ヒ銳意多年海産物ノ撈獲輸出ヲ為シ又尖
閣列島ヲ探險シテ許可ヲ得識者ニ謀リ永住の設備ヲ施シ以テ移民ヲ
勸奨シ水禽ノ剝製鳥毛漁介ノ採取肥料ノ製造等多方經營ニ力ヲ尽シ
明治四十年ノ如キハ産物採取額拾參万四千余円ニ達シ且將來ヲ追
フテ發展セントス一般水産業ノ進歩ニ資シ漁民ヲ裨補スル事尠カラ
ス洵ニ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナリトス依テ明治十四年十二月七
日勅定ノ藍綬褒章ヲ賜ヒ其ノ善行ヲ表彰セラル

明治四十二年十一月二十二日
賞勳局總裁 從二位 伯爵 正親町 実 正
勳四等

沖繩県那覇区字西九十六番地
平民 古賀 辰四郎

安政三年一月十八日生

右褒賞ノ件沖繩県知事ノ内申ニ依リ審査候処

辰四郎ハ福岡県ノ産ニシテ資性温良海事思想ニ富ミ産業ノ經營着実
ナリ沖繩県下ノ各群島ニハ必スヤ幾多有用海産物ノ藏蓄アルヘキヲ
想ヒ興業ノ意ヲ決シ明治十二年二月同県ニ至リ那覇ニ本店ヲ構ヘ殖
産業ニ從事シ爾來三十余年間幾多ノ辛酸ヲ嘗メ艱苦ト闘ヒ銳意海産
物ノ撈獲輸出ヲ經營シ又沖繩本島ト清國福州トノ航路ノ中央ニ散在
スル尖閣列島ヲ探險シ之カ開拓ノ認可ヲ得識者ニ謀リ永住の諸設備
ヲ施シ移民ヲ勸奨シテ水禽ノ剝製鳥毛ノ採取肥料ノ製造等多方面
ノ事業ヲ經營シ奮勵努力其發達ヲ図リ殊ニ海産物ノ捕獲及之カ利用
方法ニ関シ漁民ニ与ヘタル利益ハ甚タ大ニシテ延テ一般水産業ノ進
歩ヲ来シ同県ニ於ケル斯業ヲシテ能ク今日ノ隆盛ニ達セシメタルモ
ノ本人ノ熱誠与テ大ニ力アリ同人ノ如キハ洵ニ公衆ノ利益ヲ興シ功
績顯著ナルモノト認候条褒章條例ニ依リ藍綬褒章御下賜相成度別紙
沖繩県知事上申書類相添此段及申牒候也

明治四十二年九月八日

農商務大臣男爵 大浦 兼 武 ㊦
賞勳局總裁伯爵 正親町 実 正 殿

官親第一一七ノ一号

明治四十二年五月卅一日 沖繩県知事 日 比 重 明
農商務大臣男爵 大浦 兼 武 殿

此ノ証ヲ勘査シ第六百三十五号ヲ以テ褒章簿冊ニ登記
賞勳局書記官 勳三等 横田 香 苗
賞勳局書記官 從五位 藤井 善 言
勳四等
古賀辰四郎へ藍綬褒章下賜ノ件写(抄)

古賀辰四郎へ藍綬褒章下賜ノ件
右謹テ奏ス
明治四十二年十一月二十二日

賞勳局上申第三八六号
明治四十二年十一月十九日

内閣總理大臣侯爵 桂 太郎 花押
賞勳局總裁 花押 ㊦
内閣總理大臣花押

別紙農商務大臣申牒沖繩県那覇区字西、古賀辰四郎褒賞ノ件審査候
処左ノ如シ
資性温良夙ニ海事思想ニ富ミ明治十二年福岡県ヨリ移住シ那覇ニ本
店ヲ置キ爾來殖産ノ業ニ從ヒ銳意多年海産物ノ撈獲輸出ヲ為シ又尖
閣列島ヲ探險シテ許可ヲ得識者ニ謀リ永住の設備ヲ施シ以テ移民ヲ
勸奨シ水禽ノ剝製鳥毛漁介ノ採取肥料ノ製造等多方經營ニ力ヲ尽シ
明治四十年ノ如キハ産物採取額拾參万四千余円ニ達シ且將來年ヲ
追フテ發展セントス一般水産業ノ進歩ニ資シ漁民ヲ裨補スル事尠カ
ラス洵ニ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナリトス
因テ褒章條例第一条ニ拠リ藍綬褒章下賜相成可然ト認定候条此段上
申ス

褒章下賜ノ件ニ付具申

沖繩県那覇区字西九十六番地平民
商 位 勳 古賀 辰四郎

右ノ者性質温良品行方正ニシテ海事思想ニ富ミ産業ノ經營着実ナリ
明治十二年以來本県ニ於テ殖産業ニ從事シ銳意海産物ノ撈獲輸出ヲ
經營シ其ノ他水禽ノ剝製鳥毛ノ採取肥料ノ製造等多方面ニ精勵シテ
其ノ發達ヲ促カシ殊ニ海産物ノ捕獲ニ関シテハ漁民ニ多大ノ利益ヲ
与ヘ延ヒテ一般水産業ノ進歩ヲ来タシ其ノ効勞顯著ナル者ト相認メ
候条褒章條例ニ依リ藍綬褒章御下賜相成様致度別紙本人ノ履歷書戸
籍謄本事業經營書各式通相添此段具申候也

明治三十二年以前ノ履歷

古賀 辰四郎

- 一 明治拾貳年琉球藩ヲ廢シ沖繩県ヲ置カレタル時来県シ専ラ海産物
ノ採取ニ從事シタリ
- 一 同年五月本店ヲ那覇ニ置キタリ
- 一 明治拾三年二月八重山石垣島ニ海産物其他視察ノ為出張シ明治拾
五年二月同島ニ支店ヲ開設シタリ
- 一 明治拾七年尖閣列島ニ人ヲ派遣シ同島ノ実況ヲ探險セシメ爾來年
々労働者ヲ派遣シ海産物採取ヲナサシメタリ
- 一 明治拾五年尖閣列島經營ノ余暇ヲ以テ沖繩開運会社所有船大有
丸(五百四十噸)ヲ借り入レ自ラ労働者ヲ随ヘ大東島ノ探險ヲナ

シタリ

一明治式拾七年尖閣列島ノ形勢ヲ觀察スルニ同島ノ国家的福利ノ一ナルコトヲ信シ茲ニ殖民的經營ノ切要ヲ認メタレハ該島ノ開拓認可ヲ本県知事ニ請願シタルモ當時同島ノ所屬ガ未定ナリトノ理由ヲ以テ却下セラレタリ

一明治式拾八年尖閣列島事業ニ関シ自ラ視察ノ必要ヲ感シ小艇ヲ鑿装シ実地探險ヲナシタリ

一同年更ニ尖閣列島開拓認可ヲ内務農商務兩大臣ニ宛テ出願シ傍ラ上京シテ視察ノ実況ヲ親シク具陳シ認可ヲ懇願セシモ遂ニ許可ヲ与ヘラレザリシ

時偶々明治式拾七八年戦役ハ終局シ皇国大捷ノ結果台湾島ハ帝国ノ版圖ニ帰シ尖閣列島亦我カ所屬タルコト式拾九年勅令第拾参号ヲ以テ公布アリタルニ付重テ同島開拓認可ヲ本県知事ニ請願シ同年九月認可ヲ与ヘラレタリ

一明治三十年遠洋漁業改良船ヲ大阪商船株式会社へ依屬シ同年三月式艘ヲ建造シ遠洋漁業ニ従事シタルニ良好ナル結果ヲ得タリ

一明治三十一年事業ノ發展ニ伴ヒ益々交通機關ノ必要ヲ生シタルニ依リ大阪商船株式会社ニ協商シ同社所有汽船須摩丸(千六百余噸)ヲ借入レ尖閣列島ニ寄港セシメ爾來汽船ヲ以テ交通ノ便ヲ謀リタリ

鳥糞生産高及価額調

一明治四十年度

生産高五千斤

此代価壹千参百円

ヲ授与ス

明治四十年十二月一日

農商務大臣從二位勲一等 松岡康毅

真珠二等賞銀牌

審査長正五位勲四等 神山閏次

右第二回関西九州府県聯合水産共進会審査長ノ薦告ヲ領シ茲ニ之ヲ授与ス

明治四十年十二月一日

農商務大臣從二位勲一等 松岡康毅

銀杯

夙ニ心ヲ沖繩県郡島ノ殖産ニ致シ銳意海産物ノ捕獲及ヒ輸出ヲ經營シ八重山群島ノ漁業ヲ開發シ又無人ノ尖閣列島ニ探検ヲ試ミ魚介ノ捕獲水禽ノ剝製等ニ力メ専ラ移住ノ先導ヲ為ス其ノ間刻苦經營多年洵ニ一日ノ如シ其功績稱揚スヘシ仍テ茲ニ之ヲ賞ス

審査長正五位勲四等 神山閏次

右第二回関西九州府県聯合水産共進会審査長薦告ヲ領シ茲ニ之ヲ授与ス

明治四十年十二月一日

農商務大臣從二位勲一等 松岡康毅

事業経営

一沖繩県下ニ於ケル起業

古賀辰四郎ハ別紙履歴書ニモ記載ノ通り福岡県出生ノ者ニ有之始メテ沖繩県下ニ來リ海産物ノ採集捕獲ノ業ニ従事シタルハ明治十二年

一明治四十一年度

生産高八千斤

此代価式千八拾円

以上

履歴書(抄)

沖繩県那覇区字西九十六番地居住平民商

古賀辰四郎

安政三年一月十八日生

賞罰

一明治四十年十二月長崎市ニ於テ関西九州一府十九県聯合水産共進会開催ニ際シ尖閣列島及ヒ県下ニ於ケル製造物品ヲ出品シタルニ對シ一等賞牌一個二等賞牌二個ヲ受領セリ

其ノ褒状別紙第八号写ノ通

[別紙]第八号

鑾飾海參、一等賞金牌

審査長正五位勲四等 神山閏次

右第二回関西九州府県聯合水産共進会審査長ノ薦告ヲ領シ茲ニ之ヲ授与ス

明治四十年十二月一日

農商務大臣從二位勲一等 松岡康毅

鑾飾二等賞銀牌

審査長正五位勲四等 神山閏次

右第二回関西九州府県聯合水産共進会審査長ノ薦告ヲ領シ茲ニ之ヲ授与ス

二月ニシテ時恰モ琉球藩ヲ廢シ沖繩県ヲ置キタル年ニ屬セリ是ヨリ先本人ハ沖繩各群島ニハ必スヤ幾多有用ノ海産物ノ藏蓄アルヘキヲ想ヒ興業ノ意ヲ決シテ本島ニ來航スルニ至レリ其着スルヤ自ラ沿岸ヲ巡視シ漁夫ヲ備ヒテ海中ヲ探ラシメタルニ果シテ産物ノ豊富タルヲ認メ茲ニ初メテ本業ニ従事スルノ端緒ヲ開ケリ當時本島ニ於ケル一般ノ民度尚未タ幼稚ニシテ就中經濟思想發達セス是等天産物ヲ利用スルノ念殆ンドナク僅ニ自給自足ヲ以テ満足セルノ状態ニ在リシガ故ニ海中ノ産物ヲ採取スルモノナキノミナラス彼ノ工業用トシテ高価ノ販路ヲ有スル貝類則チ夜光貝、高瀬貝、広瀬貝等ノ如キ莫大ノ貝殻ハ唯其肉ヲ食シタルノミニテ之ヲ放棄シ聊カモ愛惜スル所ナキノ有様ナリキ本人ハ先ヅ是等ノ状態ヲ目撃シテ慨歎シ本島ノ海産物ヲ採取シ之ヲ利用シテ國家ノ福利ヲ増シ県民ノ經濟ヲ進メサルヘカラストナシ爾來三拾年間ノ星霜ヲ此ノ目的ノ為ニ消費シ其間幾多ノ辛酸ヲ嘗メ艱苦ト闘ヒ經營ノ多クヲ尽シ以テ本県人民ニ海産業ノ有利ナルヲ知ラシメ兼ネテ県下ノ無人島タル尖閣列島ノ經營及ビ沖ノ神島ニ於ケル事業ノ基礎ヲ作ルコトヲ得タリ

本県下當時ノ状態ガ斯ノ如キ有様ナリシカ故ニ本人ハ此ノ目的ト希望トヲ達スル手段トシテハ先ヅ県内枢要ノ地ニ店舗ヲ設クル必要アルヲ以テ來県ノ年則チ明治十二年五月那覇ニ本店ヲ構ヘテ附近ノ人民ヲ誘導シ是等無數ノ貝殼類ヲ購入スルコトニ着手セリ之レ本人ガ薄資ヲ以テ孤身奮闘能ク今日ノ成功ヲ贏チ得タル事業經營ノ第一歩ナリトス

試ニ當時購入貝類ノ代価ヲ記サンニ夜光貝ノ如キハ大ナルモノ一個二錢若クハ三錢又高瀬貝広瀬貝ノ如キハ百斤三四拾錢ニテ容易ニ購

入シ得タル次第ニテ人民ノ海産物ニ対スル思想ノ幼稚ナリシヲ知り得ヘシ本人ハ是等ノ貝類カ先ツ外国商館向ノ適當品ナルヲ見込ミ之ヲ神戸港ノ外商ニ齎ラシ協商スル所アリ此等ノ貝類年々三四拾万斤ヲ売込ミ其売上代金ヲ以テ海産物ノ開拓事業ヲ進捗セシムルノ資ニ供シタリ

其ノ後は等ノ貝類ハ次第ニ好況ヲ以テ外商間ニ迎ヘラレ大ニ販路ヲ拡張シ得ルノ見込確定シタルヲ以テ明治十五年二月県下ノ最遠隔雇島ノ一タル八重山石垣島ニ支店ヲ設置シ島民ノ漁業ヲ勸奨シ傍ラ本業タル貝類其他海産物ノ輸出ニ努力シ大ニ啓発スル所アリシニ県民中漸ク斯業ノ有利ナルヲ覚ルモノアリテ直接外商ニ販売ヲ契約スルモノモ頗ルハル、ニ至レリ而シテ神戸ニ於ケル外商ノ貝類買込ミノ趨勢ハ自然競争ノ姿トナリ且ツ原価モ次第ニ騰貴シテ本人ガ最初外商ヘノ売込価格ハ百斤売内内外ナリシガ原価ノ騰貴ト共ニ外商ノ買込価格モ昂騰シテ高瀬貝ノ如キハ百斤二円三円トナリ五六円ト次第ニ高ク遂ニ二百斤二拾五六円ノ突飛ナル高値ヲ呼ブニ至レリ去レハ県ノ内外ニ於テ斯業ニ注目スルモノ漸ク多ク坂神方面ニ於テハ本県産ノ貝類ヲ以テ鈕釦ノ製造業ヲ起スモノサヘアルニ至レリ斯クテ本県ノ貝殻類ニ対スル需用ハ一般貝類工業ノ發達流行スルト共ニ益増進シテ其後印度南洋方面ヨリノ原料貝殻ノ輸入ヲ見ルニ至ルマデハ頗ル高値ヲ保ツコトヲ得タリ此外本人ハ鰯、鱈、鱈、海參等ノ水産物ノ製造ヲ奨励シタルニ清国向需要品トシテ支那商人ノ歡迎スル処トナリ其後年々盛況ヲ呈シ當今ニ於テハ本県重要物産ノ一二數ヘラル、ニ至レリ

以上ハ本人ガ事業經營ノ当初ニ於テ先ツ海産物輸出ヲ試ミ県下ノ産

到来ヲ俟テリ

本人ハ先づ無人島探検及ヒ其ノ經營ガ尋常ナル準備ノ下ニ行ハルヘキニアラサルヲ知り其初志ヲ確実ニ貫徹センガ為ニハ永住の經營ヲ為スノ必要ヲ認メ明治廿八年四月本籍ヲ此ノ地ニ移シ専心斯業ニ從事スルコト、セリ然ルニ是等事業ノ發達ヲ助クルニ最モ必要ナル交通機關ハ頗ル不便ヲ極メ僅ニ定期郵便船トシテ一ニ小汽船ノ大阪那覇八重山間ヲ往復スルアルノミ而カモ其ノ一航海ハ常ニ月余ヲ要シ加フルニ發着時間ノ不規則不正確ナリシガ為ニ運輸品ノ遲着停滯ハ普通ノ事ニシテ商機ヲ錯リ失敗ノ悲運ニ遭遇セシコト當ニ一再ニ止マラサリキ

四 尖閣列島ノ探検

尖閣列島ハ東經百二十三度北緯二十五度ノ洋中ニ在ル蕞爾タル無人ノ小列島ニシテ恰モ沖繩本島ト清国福州トノ航路ノ中央ニ位シ其列島ハ釣魚島、黄尾島、南小島、北小島ノ四個ノ小島ヨリナレリ本人ハ其ノ位置ニ鑑ミ同島ニ植民の經營ノ必要ナルヲ認メ明治十七年始メテ人ヲ派遣シ該島ノ実況ヲ探検セシメタリ而シテ其探検者ノ報告ニヨリ同島ガ事業ノ經營ニ適セルコト及ビ其ノ島嶼ノ形勢大要ヲ知ルコトヲ得タルヲ以テ多年ノ宿望ヲ達スルノ機会到来セリトナシ更ニ人ヲ派シ試ミニ同島ニ於ケル鳥毛及ビ海産物ノ採捕ヲ為サシメタリ斯クテ同島ニ於ケル是等ノ産物ハ外国輸出品トシテ適當ナルノミナラス内地ニ於テモ相当ノ売行アル物品ノミナリシヲ以テ爾來拾有余年ノ間年々労働者ヲ派遣シ其ノ採捕ニ怠ル所アラサリシガ明治二十八年ニ至リテ該島ノ事業大ニ起スヘキ機会ノ到来セシヲ以テ自ラ小艇ヲ艦装シ実地探検ニ赴ケリ此行風濤險惡ニシテ航行甚ダ危

業上三貢獻シタル点ナリトス

二 八重山支店ノ開設

附 同島産業ノ状態

本人ハ明治十五年二月事業ノ發展上八重山島ニ支店ヲ開設シタルコト前掲ノ如シ元來此ノ島ハ県下最遠隔ノ一離嶋ニシテ土地肥沃風土適善ナルガ為動モスレハ人民安逸ニ傾キ易ク從テ企業ニ心少ク魚介ヲ漁獲シテ一般ノ利益ヲ進メントスルノ念慮乏キハ前記沖繩本島ニ於ケルト異ナル所ナリ隨テ該島附近ノ海産物ハ旧藩時代ノ遺習ニ從ヒ鱈甲ノ採集位ノモノガ極メテ旧式ヲ以テ行ハレタルノ外何等ノ見ルヘキモノアラサリキ其他鬱然トシテ繁茂セル山林樹木ノ利用上ニ遺憾ノ廉多カリシカ故ニ支店開設以來勉メテ魚介ノ採集上出来得ル丈ケ進歩セル方法ニ抛ラシムルコトヲ勸誘スルト共ニ野生ノ樹木中ヨリ鳥糞ヲ製造スル方法ヲ教ヘテ自然物ニ加工スルコトノ如何ニ利益アルカヲ知ラシメタリ然ルニ其ノ効果空シカラス海産物ニ於テハ外国輸出品トシテ本人ガ經營ニ属スルモノ次第ニ隆昌ニ趨キタルノミナラス同島ニ於ケル鳥糞ハ県外輸出品トシテ益々發展ノ域ニ進ミツ、アリ

三 無人島探検ノ志望

附 永住の經營ノ着手

本人ガ無人島探検ノ志望ハ国家的福利ヲ進メント欲スル一念ニヨリテ益々熱心ノ度ヲ高ムルニ至レリ殊ニ本県下ニ來リテ地理形勢ヲ觀察シ且當時ニ於ケル清国トノ國際關係上ヨリ考フルモ從來帝國臣民ノ着手セサリシ附近ノ属島ニ對シテ殖民的經營ヲ始ムルハ最モ切要ノ業ナリト信シタルヲ以テ爾來コレガ探検ノ志望ヲ抱キ只管機會ノ

険ナリシモ辛フシテ列島中ノ一嶼ニ上陸スルコトヲ得タリ則チ同島ヲ視察スルニ樹木ハ繁茂シテ原野耕スヘク無數ノ水禽ハ群棲シテ手モテ捕フヘク沿岸亦海産物ニ富ミ前途甚タ有望ナルヲ覺知シタリ右視察シタル列島ニハ大ナルモノニアリ其面積一ハ約四万里ニ達シ他ハ約一万里アリ大ナルモノヲ釣魚島一名和平山ト云ヒ小ナルヲ久場島一名黄尾島ト云フ最初探検當時上陸シタルハ乃チ列嶋中ノ久場島ナリトス

五 尖閣列島開拓ノ認可

附 探検後ヨリ認可ニ至ル迄ノ事業上ノ経歴

本人ガ尖閣列島開拓ノ認可ヲ得タルハ明治二十九年九月ナリキ是ヨリ先本人ガ同列島ニ對スル事業ノ端緒ハ明治十七年ニ開カレタルコト前段記スル所ノ如シ斯クテ其ノ後年々出稼労働者ヲ派遣シ同島産物ノ採集ニ從事セシムルニ怠ラサリシコト又前段ニ略記セシ如クナルガ右労働者ヲ募集スルニ就テハ甚タ困難ナル經驗ヲ嘗メタリ蓋シ同島ガ絶海無人ノ島嶼タル故ヲ以テ危険ヲ恐レ出稼ヲ希望スルモノナキハ勿論論誘ニ応スル者皆無ナリシコト之ナリ尤モ當時県下一般ノ民情ガ比較的海国的進取ノ氣象ニ乏シカリシハ其重ナル原因ナリシナルヘシ故ニ本人ハ此ノ労働者ヲ得ンガ為ニハ実ニ勸誘百端ノ勞ヲ尽シタリ而カモ其ノ僅ニ募リ得タル所ノ者ハ老人ニアラサレハ郷土ニ於テ労働ノ途ヲ得サル種類ノモノ、ミナルガ故ニ到底完全ナル労働者ト云フコト能ハサルナリ然ルニ彼等ハ驚クヘキ多額ノ賃銀ヲ要求セリ當時本県ノ物価極メテ安値ナルニ食糧煙草其他凡テノ日用品ヲ給与シタル上尚ホ一ヶ月金拾五円乃至拾円ヲ得ント希望セリ本人ハ只管ニ是等ノ小障碍ニ依リ事業ヲ中廢センコトヲ遺憾トシ賃

銀ハ彼等ガ要求スル儘ニ支払ヒ一航海ヲ限りテ雇用スヘキ契約ヲ結
ビ滯島期間ニ要スル一切ノ糧食及ヒ其他ノ給養品ヲ整ヘ始メテ発航
セシメ得タルナリキコハ全島第一次探検ノ際ニ於ケル事実ナルカ其
後トテモ年々同島ニ於ケル産物採集時期ニ際シテ労働者ヲ派遣スル
ニ方リテハ毎回右ト同様ナル苦心ヲ重ネタリシガ是等労働者ノ帰還
スルモノ漸ク其業ニ習熟シ其ノ土地ニ慣ル、ニツレ同列島ニ於ケル
彼等ノ労働ガ意外ニ容易ニシテ収入多キモノタルコトヲ知り且ツ之
ヲ彼等ノ朋友知己ノ間ニ吹聴セシニヨリテ漸次同列島出稼労働ヲ志
望スルモノアルニ及ヘリ斯クテ明治十七年ヨリ殆ト拾有年間に右ノ
如キ苦心ヲ以テ出稼人ヲ募集シ漸ク志望者ノ増加スルニ随ヒ労働者
ノ選択ヲ行ヒ得ルニ至リシハ事業ノ経営上誠ニ便宜ノ一事タリシナ
リ而シテ又本島民ニ移民ノ先導鼓吹ヲナシ遂ニ移民繁栄ノ基礎ヲ成
シ得タリ又以上ノ如クニシテ當時最大困難ノ一タル出稼労働者募集
ノコトモ漸ク其ノ緒ニ就キタルノミナラス其後同島ノ産物愈々有望
ナルヲ確ムルニ至リテ明治二十七年同島開拓ノ認可ヲ本島ニ出願シ
タリ然ルニ當時同島ノ所屬ガ帝國ノモノナルヤ不確定ナリトノ理由
ヲ以テ却下セシニツキ更ニ本人ハ内務農商務大臣ニ宛テ願書ヲ提
出セリ而シテ傍ラ上京シテ視察ノ実況ヲ親シク具陳シ開拓ノ認可ヲ
懇願セシモ尚ホ許可ヲ与ヘラハ、ニ至ラサリシガ時偶々明治二十
七、八年戦役ハ結局ヲ告ゲ皇國大捷ノ結果トシテ台湾島ハ帝國ノ版
図ニ帰シ尖閣列島亦我が所屬タルコト明治二十九年勅令第十三号ヲ
以テ公布アリタルニヨリ直チニ重ネテ同島開拓ノ認可ヲ本島ニ出願
シ同年九月之ガ認可ヲ与ヘ茲ニ漸ク本人ガ同島ニ対スル多年ノ宿志
ヲ遂クルコトヲ得タリ

六 開拓認可後ノ経営方針

附 改良遠洋漁業船ノ建造、県民一部ノ感觸、同島
ニ於ケル交通ノ不便及ヒ荷役ノ困難

明治十七年以降本人ガ同島ニ対スル経営方針ハ単ニ年々或時季ニ際
シテ店員及ヒ出稼労働者ヲ派遣シ鳥毛魚介ノ採集ヲ為スノミナリシ
カ開拓認可後ハ永遠ノ基礎ヲ定メシガ為ニ同島ニ永住者ヲ送り断然
植民ノ経営ノ籌畫ヲナスニ決セリ然レドモ當時本島下一般ニ用キラ
レタル船舶ハ脆弱ナル琉球形船舶ニアラサレハ舢舨ノミニシテ到底遠
洋漁業ノ用ニ堪ヘサルノミナラス無人島経営ノ交通機關トシテハ甚
タ危険ナルヲ以テ此ノ事ヲ決行スルニ先タ猶豫メ大阪商船株式會社
ニ依頼シテ二艘ノ改良遠洋漁業船ヲ建造スルコトニ定メタリ斯クテ
右ノ船舶ハ明治三十年ニ至リテ落成セルヲ以テ先ツ之ヲ八重山島ニ
送り同年三月始メテ同島ヨリ出稼移民三拾五名ト糧食其他一切ノ日
常用品ヲ積載シ尖閣列島ヘ向ケ出帆セシメタルモ移民ハ内地形船舶
操櫓ノ法ヲ解セサリキ是レ琉球形船舶ハ風帆ニ依頼シテ櫓ヲ用キス
舢舨ハ主トシテ手櫓ヲ用フルノミニシテ他術ヲ要セサルニヨリ一般
ノ人民全ク此ノ術ヲ知ラサルニ依ルナルヘシ故ニ此新造船ヲ派遣ス
ルニ臨ミ本人ハ自ら師トナリテ斯術ヲ練習セシメタリ

斯クテ此ノ絶海ノ孤島ニ移民ヲ行フニ方リテ伴ヒ来ル所ノ苦心ノ最
大ナルモノハ如何ニシテ移民ヲ安全ニ生存セシメ得ヘキカニアリタ
リ蓋シ糧食ノ補給ハ云フ迄モナク雨露ヲ凌グノ方法及ビ一般ノ衛生
上疾病災難ニ対スル救護ノ方法ヲモ講セサルヘカラサルヲ以テナリ
然ルニ本人ガ此事ニ対シテ多大ノ苦心ヲ払ヒ居ル時県民ノ一部ニハ
本人ガ今回ノ計劃ヲ以テ輕躁無謀ノ業ナリト非難詆笑シ或ハ悪言ヲ

流布スルモノサヘ現ハル、ニ至リタルモ本人ハ之カ為メ却テ反抗ノ
念ヲ高メ意志愈々鞏固トナリタリサレド又彼ハ沈思熟考シ万一災禍
ニ罹リ三十有余ノ移民ヲシテ彼ガ犠牲者タラシムルカ如キコトアラ
ンカハ危懼スルノ念ニ堪エサリシ然ルニ幸ニシテ最初ニ移民ヲ送遣
シタル此ノ二艘ノ改良漁業船ハ天候平穩何等ノ故障モナク往復二十
余日ヲ費シテ同島ヨリ採集ノ貨物ヲ積載シテ無事帰還セリ更ニ同年
四月糧食其ノ他ヲ積込ミテ派遣シタリシニ翌明治三十一年五月結果
頗ル良好ナルノ報知ヲ齎セシヲ以テ本人ハ大阪商船株式會社ト協商
スル所アリ同會社ト所有汽船須摩丸(千六百餘噸)ヲ借入レ自ラ移
民五十名ヲ引率シ糧食日用器具各種ノ材料等ヲ準備シテ首途ニ就ケ
リ

本人ガ此ノ渡航ハ同島ニ移民計劃ノ基礎ヲ確立セントノ希望ナリシ
カ故ニ暫時島内ニ滞留スルコト、セリ而シテ先ツ是等移民ニ家屋ヲ
与ヘンガ為メ建築ニ着手シ井ヲ掘鑿シ原野ヲ拓キ甘藷野菜ノ類ヲ栽
培スル等以テ専ラ航海杜絶不時ノ災厄ニ備フル設備ヲ整ヘテ一先ツ
本店ニ帰還セリ此設備タルヤ幾百ノ移民等ヲシテ稍ヤ安全ニ土着の
生活ヲナサシメ且ツ開墾其他本島事業ノ基礎ヲ鞏固ニスルノ一因ト
ナレリ

本人ノ事業進行上最モ困難ヲ感セシハ同島ニ於ケル荷役ガ如何ニ
不便ニシテ亦航海力如何ニ不自由ナリシカノ点ナリトス抑モ右尖閣
列島ノ地形タルヤ海洋孤懸ノ島嶼ニシテ断崖四壁ヲ繞ラシテ天候少シ
ク不穩ナレハ澎湃タル怒濤其ノ壁ヲ打ち絶エテ港ヲシキモノ無キノ
ミナラス洋中遠ク岩礁相連ナリ瀬浪ハ高ク之ヲ洗ヒ且ツ黒潮常ニ急
駿ノ速度ヲ以テ流ル、ガ故ニ舟ヲ寄スルニハ甚タ困難ヲ極ム曩ニ同

列嶋航海用トシテ本人ノ特ニ建造シタル改良遠洋漁業船ヲ以テスル
モ容易ニ陸岸ニ近ツクコト能ハス況ンヤ千六百餘噸ノ汽船須摩丸ノ
如キハ到底陸岸ニ近ツキ得ヘカラス遠ク海洋ノ間ニ投錨シ物貨ノ陸
揚積込ヲナサ、ルヲ得サルガ故ニ艱カラサル不便ト非常ナル危険ト
ヲ感シタリ斯クテ陸岸ヨリハ用意ノ舢舨數艘ヲ漕キ寄セ来リテ本船
ト荷物ノ受授ヲナセシモ前述ノ如キ有様ナルガ故ニ本船ハ左右上下
ニ動揺シ舢舨ハ掀翻セラレテ其仕事ヲ為スコト能ハス為ニ覆没ノ難
ニ遭フ事亦一再ナラサリシヲ以テ荷役ノ際ハ常ニ島内上下ヲ拳ツテ
赤裸トナリ事ニ従フ有様ナリキ

右ノ状態ナルガ故ニ一物一貨トシテ危険ヲ冒スコトナクシテ本船ト
荷役ヲ行ハレタルハナク況ンヤ其ノ後幾度ノ渡航ヲ試ムルニ方リテ
一兩回ハ借入船ヲ以テシタルモ其ノ他ハ悉ク皆他人ノ所有汽船ニ倚
頼シ本船ノ航路ヲ列島ニ迂行セシムルモノナルガ故ニ船長ハ無經驗
ノ為メ遙ニ島影ヲ望シテ危険ヲ恐レ成ルヘク遠ク陸岸ヲ離レテ投錨
セントスルモノアリ或ハ避難港ナキ洋中ニ在リテ天候ノ激変ヲ危ミ
數時間ノ停船ヲ急クモノアリ旅客ニシテ右ノ回航船内ニ便乗セルモ
ノハ多少ノ不平ヲ訴ヘテ已マサル等尚ホ諸事ノ困難枚挙ニ遑アラス
其ノ困難心痛ハ實ニ察スルニ余アリ

七、尖閣列島ニ対スル技術上ノ設計

尖閣列島ニ対スル移民計劃ガ結果良好ナルヲ見ルニツケ本人ハ其ノ
第二次ノ計劃トシテ前記ノ如キ物貨ノ運搬貨物ノ揚卸シ等ニ際スル
海陸ノ不便ト危険トヲ排除スルノ必要ヲ感シタリシ本人ハ其他尚ホ
同列島ニハ技術上ノ設計ヲ加ヘテ事業ノ将来ヲ開展セシムヘキ必要
アルヲ以テ其ノ事ヲ諮ランカ為明治三十三年上京シテ東京帝國大學

教授理学博士箕作佳吉ニ事情ヲ陳シテ其ノ考案ヲ煩ハシタリ然ルニ同博士ハ本人ガ此ノ企圖ニ多大ノ同情ト熱心トヲ弘ヒ理学士宮島幹之助ヲ推挙セラレタリシガ故ニ本人ハ則チ同人ニ同島ニ対スル技術上ノ設計ヲ一任スルコト、ナシ相携ヘテ帰県セリ此ノ外同島経営ニ就テハ尚ホ他ニ必要アルヲ以テ當時本県師範学校教諭農業担当黒岩恒ニ商量シ其ノ出張ヲ乞ヒタリ斯クテ同年五月共ニ借入汽船永康丸(大阪商船株式会社)ニ同乗シ先ツ久場島ニ上陸シ実地ニ就テ親シク(所有四百六十噸)兩人ノ指導ヲ受ケ大略左ノ如キ設計ヲ定メタリ

一 鳥類魚介ノ濫獲ヲ戒メ繁殖法ヲ講シ種族断絶ノ憂ナカラシムルコト

二 家屋ヲ建テ移住者ノ安息ヲ図ルコト

三 久場島ニハ河泉ノ依ルヘキモノ無キガ故ニ天水貯槽ヲ設クルコト

四 船着ノ安全ト海陸運搬ノ利便ヲ図ル為メ碇繫所ヲ築クコト

五 道路ヲ開鑿シ兼ネテ汚穢物排除ノ方法其ノ他衛生的設備ヲ講スルコト

右ノ設計ヲ遂行センカ為ニハ水槽築設用トシテ煉瓦セメント等其他ノ材料ハ遠ク之ヲ内地ヨリ仰ギ小港灣ヲ築クニハ附近海陸ノ岩礁ヲ破碎スル為工業用爆裂薬ヲ用ケル等一切ノ準備ヲ整フルコト、セリ而シテ是等ノ材料ヲ内地ヨリ輸入シ来タルニ就テモ煉瓦、セメントノ陸揚ハ甚タ困難ヲ感シタリ殊ニセメントノ大樽ヲ荷上ゲスル為メ本船ノ動揺ト舳船ノ掀翻ト両々相待シテ困難ハ実ニ想像ノ外ニアリタリ然ルニ是等艱難ヲ凌ギ輸入シ来リタル材料ヲ以テ工事ヲ行フニ方リテヤ幾多ノ障碍ニ出會シ設計ヲ變更シ位置ヲ転移スル等屢々

八 鳥類ノ製造

九 牧畜

十 養蚕

十一 罐詰製造

十二 燐礦鳥糞ノ採掘

右ノ内島毛及ヒ鱧鱒、海參、貝殼、鼈甲ノ採取ハ明治十七年列島探検後ヨリ着手シ来レルモノナリ鱧ノ漁撈モ夙ニ行ヒ来レル所ナルモ明治三十八年始メテ鱧船ノ新造ヲナスマデハ剝舟ノ延縄ニテ小規模ノ漁撈ヲナセシニ過キサリキ然ルニ同列島ニ於ケル鱧漁ノ有望ナルコト第一ハ食餌ノ潤沢ナルト鱧ノ魚群ガ極メテ近岸ニマテ来集スルニヨリ必スシモ遠洋ニ出漁スルノ要ナキ等孰レモ天与ノ好適地ナルニ由リ從來ノ規模ヲ擴張スル為前記ノ如ク明治三十八年初メテ内地ニ於テ鱧船三艘ヲ建造シ之ヲ同列島ニ送遣セリ加之斯業ニ熟練ナル漁夫及ヒ鱧節製造人十名ヲ官崎県下ヨリ雇入レ其業ニ從ハシメタリ而シテ其成績ハ頗ル見ルヘキモノアリシガ不幸ニシテ半途激烈ナル暴風ノ襲撃ニ遭ヒ漁船ハ三艘共ニ破碎セラレテ多大ノ損害ヲ被リタリサレド人命ニハ別条ナカリシハ不幸中ノ幸ナリキ

同列島ニ於ケル鱧漁ノ有望ナルハ既記ノ状態ナルカ故ニ越エテ翌明治三十九年更ニ鱧船五艘ヲ新造シ爾來一層ノ好成绩ヲ収メツ、アリ又本人ハ水禽ノ剝製ハ欧米諸國ノ婦人帽子裝飾用トシテ充分ノ需用アル事ヲ兼テ知リタルモ製鳥ノ職人ヲ得ル事容易ナラス屢々東京横浜其他各地ニテ之ヲ求メタルモ得ル能ハス斯業者ニ問合スモ猜忌ノ念ヲ以テ之ヲ迎ヘ秘シテ教ヘズ為ニ心ナラスモ放棄シツ、数年ヲ経過セシカ明治三十六年上京種々苦心ノ末漸ク十数名ノ職人ヲ得テ帰

ナリシカ故ニ其都度右ト等シキ艱難ヲ繰返シ材料ヲ輸入シ設計ヲ新ニセサルヘカラサリシ是等モト本人ガ設計ノ粗漏ニ職由スト雖モ又以テ絶海無人ノ島嶼ニ於テ薄資ヲ以テ事ニ從フノ如何ニ困難ナリシカヲ察知スルニ足ル又碇繫所ヲ築クニ方リテ陸上ノ岩壁ハ之ヲ碎クニ時ヲ選ハサレトモ海中ノ岩礁ハ干潮時ヲ待ツノ要アル等其ノ他幾多ノ障碍ノ因ヲナシテ工事意ノ如ク進捗セズ遅々トシテ今尚ホ竣工ニ至ラス

而シテ是等工事ノ次第ニ進捗ヲ見ルト同時ニ明治三十四年五月借入汽船仁寿丸(四百六十噸)ヲ送遣スルニ当リ本人ハ本県技師熊倉工学士ノ出張ヲ乞ヒ共ニ同列島ニ航行シ同年八月マテ滞在シ諸般ノ改善ヲ計劃シ更ニ左ノ新設計ヲ案セリ

一 海鳥ノ卵及ビ雛児ノ風浪ニ略奪セラル、ヲ擁護シ且家屋漁船ノ安全ヲ図ル為ニ海岸ノ要所ニ防波堤ヲ築クコト

此ノ工事モ亦種々故障ノ為メ幾多ノ費用ト努力トヲ浪費シテ幾度カ設計ヲ變更シタル後漸クニシテ之カ工ヲ竣ヘタリ

八 尖閣列島ニ於ケル産業経営ノ梗概

尖閣列島ニ対スル産業経営ノ大要左ノ如シ

一 鳥毛ノ採集、水禽ノ剝製

二 鱧鱒、海參、貝殼、鼈甲ノ漁獲採集

三 鱧漁、鱧節ノ製造

四 植林(樟苗及ヒ松杉柑橘類ノ栽培)

五 開墾及ヒ穀菜ノ栽培

六 汽船ノ購入

七 珊瑚採集

レリ而シテ翌三十七年「アイサシ」「カツヲドリ」其他雜禽ヲ剝製又ハ毛羽トシテ初メテ横浜神戸ノ外商ニ売込ミタルニ望外ノ好評ヲ博シタリ爾來年々輸出増加ノ一方ニシテ去ル明治三十九年度ニ於テハ式拾余万羽ヲ輸出シ四十年更ニ於テハ約其二倍以上ノ取引ヲ行ヘ

列島ニ樟苗ヲ栽植シタルハ明治三十九年ノ事ニ属ス而シテ同島ノ風土ガ樟樹栽培ノ好適地タルヲ信シタルヲ以テ同年十一月台湾總督府附屬試驗場ヨリ樟苗三万本ヲ購入シ釣魚島、久場島ノ二嶋ヘ植付ケシニ發育大ニ良好ナルヲ以テ爾後年々植付ヲ行フ事ヲ決セリ

同列島ニ於ケル移民ノ数多キヲ加フルト共ニ開墾ノ事業ハ益々忽諸ニ附スヘカラサルヲ以テ此ノ点ニハ少カラス資力ヲ傾注シタル結果現今開墾ノ地積六拾余町歩ニ達スルニ至レリ而シテ栽植物ノ種類ハ重ニ雜穀甘藷野菜類等ニテ日々移民ノ給養ヲ充シツ、アリ斯クテ其後移民ノ總數ハ二百四十八名ノ多數ニ達シ戸數亦九十九戸ニ及ヘリ右開墾ノ地積ヲ戸口ニ割當ツレハ一戸ニ付六反歩余一人ニ付二反四畝歩ノ平均ニ相當セリ斯クテ曠昔荒蕪タリシ無人ノ列島今ヤ聖沢ニ潤ヒ次第ニ殷賑ニ赴ケリ

同列島ニ於ケル事業スク其緒ニ就クト共ニ本島トノ交通モ從テ繁劇ヲ加フルヲ以テ他ノ借入船及回航船ナドニ依頼スルハ不便不利尠カラサルヲ以テ同島トノ運輸ヲ円滑ナラシムル為メ汽船ノ購入ヲ企圖シ明治三十九年十一月台湾總督府所有船三浦丸(百四十五噸)ヲ購入シ之ヲ辰島丸ト改稱シ該列島トノ交通ニ供スル事トセリ

珊瑚採取、鳥類ノ製造及ヒ牧畜業ハ明治四十年更ニ着手セシヲ以テ未タ其成績ノ如何ヲ言明スルニ由ナシ又該列島ニハ野生ノ桑

樹甚々多キヲ以テ今明兩年中ニハ養蚕ヲ試ムル計劃ナリ

同列島附近ノ海洋ハ四時魚族群棲シ恰モ其巢窟ナルカノ觀アリ日本人ハ是等魚肉ノ罐詰製造ヲ豫テ發意シ居タルガ明治四十一年四月本島島尻水産学校卒業生一名ヲ備聘シ且同校教諭岩井ノ渡島ヲ乞ヒ指導ヲ依頼セリ其結果非常ニ良好ナリトノ報告アリ又アジサシ其他海鳥ノ肉ハ油ヲ搾リ殘滓ヲ肥料トナシタリシガ岩井ノ案ニ依リ罐詰ニ製造スルノ有利ナルヲ認メタレハ併セテ罐詰製造ヲ始ムル計劃ナリ又本人ハ豫テ該列島ノ土壤ガ燐酸ヲ含有シ居ルガ如ク感シタルヲ以テ明治四十年三月福岡鉱山監督署ニ探掘出願書ヲ提出セシガ同年八月十九日付ヲ以テ許可セラレタリ依リテ翌四十一年二月上京農學博士恒藤規隆ニ商議シ鉍石ノ検査ヲ乞ヒタリ其結果實地踏査ノ為五月來県遍ネク列島ヲ探檢セラレタリ同博士ガ踏査中中小島ニ於ケル諸烟ノ中ニ於テ其土壤中ニ多量ノ燐酸(二五パーセント以上)ヲ含有セルコトヲ發見セリ同博士ノ說ニ依レハ右燐酸ハ全ク鳥糞ヨリ来リシモノニテ降雨ノ頻繁ナル為鳥糞中ノ窒素並ニ燐酸ノ多分ハ雨水ノ為メニ流失セルモ雨露ニ曝サレタル洞穴岩陰等ニ堆積セシモノハ其儘ニ能ク保存セラレ以テ肥沃ナル土壤ヲ成シタルナリトシテ此種ノ土砂南小島ノミヲ採集スルモ數千噸ヲ得ルコト易ク又北小島水禽群棲ノ個所ヲ採集センカ一層多量ノ肥料ヲ得ラルヘシ加之同博士ハ更ニ黄尾島ニ於テ鳥糞ノ堆積層ヲ發見シタリ蓋シ黄尾島ハ火山質ノ岩石并ニ玄武岩ノ崩壞シタルモノヨリ成リ土壤非常ニ吸水性ニ富メリ而シテ同嶋ハ信天翁ノ去來スルコト非常ニ多ク且カゴドリハ地中ニ穴ヲ穿チテ其巢ヲ當ミ夜ハ必ス其巢中ニ眠ル其巢ノ多キコト數十萬ノ上ニ上リ同島悉ク是巢ト云フモ過言ニアラス是等鳥類ノ排泄物

地中ニ堆積シ全島非常ニ肥沃ニシテ為メニ芭蕉又ハ唐芋ノ如キ徒ラニ繁茂スルノミニテ実ヲ結ハズ然リト雖モ同島モ降雨ノ頻繁ナルガ為メ是等夥多ノ鳥糞モ漸次ニ洗ヒ去ラレ其山中ニアルモノ、如キハ樹蔭落葉ヲ以テ十分ニ掩蔽セラレタル箇所ノ外ハ肥料の価値ヲ有セサルガ如シ然ルニ沿岸絶壁ノ上ニ一帶ノ葦原アリテ同島ノ周縁ヲ圍繞セリ此葦非常ニ能ク繁茂シテ人影ヲ没シ其落葉ハ積テ二三寸ノ層ヲ成シカゴドリハ其中ニ無数ノ巢穴ヲ穿テリ此葦原一帶ノ土壤コソ今回恒藤博士ノ發見セラレタル鳥糞層ナリトス土色暗黒脂肪光沢ヲ帶ヒ一種ノ臭氣アリ之ヲ火中ニ投スレハ煙ト臭氣ヲ發シテ燃燒ス同博士ノ說ニ依レハ南洋諸島ヨリ輸入スル Bird 土同一ニシテ本邦ニ於テハ他ニ類ヲ見サル好肥料ナリトス未タ精密ナル分析ト測量トヲ終ヘサレハ精確ナル記述ヲ為スヲ得スト雖モ右葦原ノ面積約五万坪鳥糞層ノ厚サ約二尺乃至三尺尚品質稍下ル部分ニ至リテハ頗ル広キ面積ニ亘レリ本人ハ徐々ニ計劃ヲ立テ探掘ニ従事セントセリ加之右鳥糞層ハ採ルニ随テ堆積スルモノナレハ鳥類ノ濫獲ヲ戒メ其保護ニ注意セハ約二十ヶ年ニシテ又今日ノ如クナルベシトハ同博士ノ意見ナリ

此ノ他同列島ニ對スル事業ノ經營ハ將來擴張シ又新ニ着手スヘキモノ多クアリ之カ經營ノ目的ヲ達セハ帝國産業界ニ貢獻スル所頗ル大ナラン

九 永久の労働者移植ノ計画

茲ニ特ニ記シ置クヘキ一事アリ原来該列島事業經營ガ凡テ永久の方針ナルヲ以テ時期ヲ限リテ渡嶋スヘキ労働者ヲ雇備スルニ於テハ徒ラニ來往ノ煩雜費用ヲ費スノミナラス彼等ノ技術ガ漸ク熟練ノ域ニ

進メル頃ハ既ニ解傭期ニ近ツケルヲ以テ其不利益尠カラス故ニ土著の労働者ヲ得ルノ極メテ利益ナルヲ感シタリ而シテ先ツ試験的ニ四十二年五月宮城福島二県ヨリ七歳乃至十一歳ノ貧兒十一名ヲ丁年迄ノ契約ニテ雇入レ渡島セシムルコト、セリ但シ右ノ中ニ名ヲ除ク外ハ凡テ不就學兒童ナルヲ以テ該列島移住者ノ一人ナル山形県師範学校卒業生ヲシテ之ガ教育ノ任ニ當ラシムル豫定ナリ

一〇 自明治三十年十一月間尖閣列島事業經營費汽船航海回数及産物採取価格

明治十七年初メテ尖閣列島ノ經營ニ著手シタルヨリ同二十九年九月開拓認可セラル、迄ノ事業ハ必スシモ規則立チタル方法ヲ以テナスコト能ハサリシ事業アリシノミナラスコレニ要シタル經費等俄カニ計算シ難キモノアルカ故ニ開拓認可後ヨリ明治四十年ニ至ル迄十一ヶ年間ニ要シタル經費其他ヲ左ニ表示ス

年別	要	金額
三十年	漁船製造並ニ水夫手当金	二、八〇〇・〇〇〇
	糧食並ニ諸經費	三、七〇〇・〇〇〇
	出稼者手当並ニ報酬金	四、九〇〇・〇〇〇
計		一一、四〇〇・〇〇〇
三十一年	汽船須磨丸回航費	三、〇〇〇・〇〇〇
	糧食並ニ諸經費	一三、〇〇〇・〇〇〇
	出稼者手当並ニ報酬金	九、六〇〇・〇〇〇
計		二五、六〇〇・〇〇〇
三十二年	汽船須磨安平兩船回航費	六、〇〇〇・〇〇〇

糧食並ニ諸經費
出稼者手当並ニ報酬金

三十三年	汽船永康丸借入料	二二、〇〇〇・〇〇〇
	糧食並ニ諸經費	八、六〇〇・〇〇〇
	出稼者手当並ニ報酬金	三六、六〇〇・〇〇〇
計		六六、〇〇〇・〇〇〇
三十四年	汽船仁寿丸回航費	三五、〇〇〇・〇〇〇
	糧食並ニ諸經費	一四、五〇〇・〇〇〇
	出稼者手当並ニ報酬金	五五、五〇〇・〇〇〇
計		一〇五、〇〇〇・〇〇〇
三十五年	汽船仁寿丸回航費	一七、六〇〇・〇〇〇
	糧食並ニ諸經費	一三、八〇〇・〇〇〇
	出稼者手当並ニ報酬金	三五、四〇〇・〇〇〇
計		四六、八〇〇・〇〇〇
三十六年	汽船仁寿丸回航費	二、七〇〇・〇〇〇
	糧食並ニ諸經費	九、四〇〇・〇〇〇
	出稼者手当並ニ報酬金	一四、六〇〇・〇〇〇
計		二六、七〇〇・〇〇〇
三十七年	汽船仁寿丸回航費	二、七〇〇・〇〇〇
	糧食並ニ諸經費	八、五〇〇・〇〇〇
	出稼者手当並ニ報酬金	一五、八〇〇・〇〇〇
計		二七、〇〇〇・〇〇〇
三十八年	汽船球陽丸回航費	二、七〇〇・〇〇〇
	糧食並ニ諸經費	九、三〇〇・〇〇〇
	出稼者手当並ニ報酬金	二二、〇〇〇・〇〇〇
計		三四、〇〇〇・〇〇〇

糧食並二諸経費

出稼者手当並二報酬金

汽船球陽丸回航費

糧食並二諸経費

出稼者手当並二報酬金

汽船回航費

糧食並二諸経費

出稼者手当並二報酬金

計
年別

(二) 自明治三十年十一月年間汽船回航
至明治四十年十一月年間汽船回航

年別	船名	噸数	回航度数
三十年	同	同	同
三十一年	須磨丸	千六百餘噸	二回
三十二年	須磨丸、安平丸	各千六百餘噸	二回
三十三年	永康丸	四百六十餘噸	四回
三十四年	仁寿丸	四百六十餘噸	四回
三十五年	同	同	同
三十六年	同	同	同
三十七年	同	同	同
三十八年	球陽丸	七百七十餘噸	五回

三十九年 同

四十年 球陽丸、辰島丸、仙頭丸、宮丸 三笠丸

(三) 自明治三十年十一月年間產物採取価額
至明治四十年十一月年間

品名	數量	單価	価額
鳥毛	一万七千斤	壹斤 七拾錢	六、八〇〇・〇〇〇
海産物			七、五〇〇・〇〇〇
鳥毛	六万五千斤	壹斤 三〇、七錢	一四、三〇〇・〇〇〇
海産物			三〇、五五〇・〇〇〇
鳥毛	八万五千斤	壹斤 四、一五〇、五錢	九、六〇〇・〇〇〇
海産物			四〇、一五〇・〇〇〇
鳥毛	二万五千斤	壹斤 一五、五〇〇、五錢	四二、五〇〇・〇〇〇
海産物			一三、〇〇〇・〇〇〇
鳥毛	一万三千斤	壹斤 七、一五〇、五錢	五五、五〇〇・〇〇〇
海産物			一五、五〇〇・〇〇〇

六回

十一回

計

三十九年 鳥毛	一万三千斤	壹斤 七拾錢	五二、三七五・〇〇〇
計			九、一〇〇・〇〇〇
三十四年 鳥毛	一万三千斤	壹斤 五拾五錢	七、一五〇・〇〇〇
海産物			一四、四〇〇・〇〇〇
計			二一、五五〇・〇〇〇
三十三年 鳥毛	二万五千斤	壹斤 五拾錢	一六、三〇〇・〇〇〇
海産物			三〇、八〇〇・〇〇〇
計			七、一五〇・〇〇〇

三十七年 鳥毛	四千六百斤	壹斤 六拾錢	二、七六〇・〇〇〇
剝製	拾參万羽	壹羽 一八、二〇〇・〇〇〇	一七、七八〇・〇〇〇
鳥肉肥料	四錢八厘	壹斤 一、七七六・〇〇〇	一、〇〇八・〇〇〇
海産物			四四、二〇〇・〇〇〇
計			九、七〇〇・〇〇〇

三十八年 鳥毛	七千五百斤	壹斤 六拾錢	四、五〇〇・〇〇〇
剝製	拾六万羽	壹羽 二四、〇〇〇・〇〇〇	一、六四五・〇〇〇
鳥肉肥料	四万三千斤	壹斤 四錢五厘	一、九三五・〇〇〇
海産物			六四〇・〇〇〇
計			八、六〇〇・〇〇〇

三十九年 鳥毛	九千斤	壹斤 五拾五錢	四、九五〇・〇〇〇
海産物			一六、〇〇〇・〇〇〇
計			二〇、九五〇・〇〇〇
三十七年 鳥毛	七千六百斤	壹斤 四、一八〇・〇〇〇	四、一八〇・〇〇〇
剝製	拾參万羽	壹羽 一七、七八〇・〇〇〇	一三、六〇〇・〇〇〇
鳥肉肥料	四錢八厘	壹斤 一、七七六・〇〇〇	一、〇〇八・〇〇〇
海産物			四四、二〇〇・〇〇〇
計			九、七〇〇・〇〇〇

三十八年 鳥毛	七千五百斤	壹斤 六拾錢	四、五〇〇・〇〇〇
剝製	拾六万羽	壹羽 二四、〇〇〇・〇〇〇	一、六四五・〇〇〇
鳥肉肥料	四万三千斤	壹斤 四錢五厘	一、九三五・〇〇〇
海産物			六四〇・〇〇〇
計			八、六〇〇・〇〇〇

三十九年 鳥毛	九千斤	壹斤 五拾五錢	四、九五〇・〇〇〇
海産物			一六、〇〇〇・〇〇〇
計			二〇、九五〇・〇〇〇
三十七年 鳥毛	七千六百斤	壹斤 四、一八〇・〇〇〇	四、一八〇・〇〇〇
剝製	拾參万羽	壹羽 一七、七八〇・〇〇〇	一三、六〇〇・〇〇〇
鳥肉肥料	四錢八厘	壹斤 一、七七六・〇〇〇	一、〇〇八・〇〇〇
海産物			四四、二〇〇・〇〇〇
計			九、七〇〇・〇〇〇

三十八年 鳥毛	七千五百斤	壹斤 六拾錢	四、五〇〇・〇〇〇
剝製	拾六万羽	壹羽 二四、〇〇〇・〇〇〇	一、六四五・〇〇〇
鳥肉肥料	四万三千斤	壹斤 四錢五厘	一、九三五・〇〇〇
海産物			六四〇・〇〇〇
計			八、六〇〇・〇〇〇

三十九年 鳥毛	九千斤	壹斤 五拾五錢	四、九五〇・〇〇〇
海産物			一六、〇〇〇・〇〇〇
計			二〇、九五〇・〇〇〇
三十七年 鳥毛	七千六百斤	壹斤 四、一八〇・〇〇〇	四、一八〇・〇〇〇
剝製	拾參万羽	壹羽 一七、七八〇・〇〇〇	一三、六〇〇・〇〇〇
鳥肉肥料	四錢八厘	壹斤 一、七七六・〇〇〇	一、〇〇八・〇〇〇
海産物			四四、二〇〇・〇〇〇
計			九、七〇〇・〇〇〇

三十八年 鳥毛	七千五百斤	壹斤 六拾錢	四、五〇〇・〇〇〇
剝製	拾六万羽	壹羽 二四、〇〇〇・〇〇〇	一、六四五・〇〇〇
鳥肉肥料	四万三千斤	壹斤 四錢五厘	一、九三五・〇〇〇
海産物			六四〇・〇〇〇
計			八、六〇〇・〇〇〇

明治四十一年以降同四十五年ニ至ル五ヶ年間ニ於ケル尖閣列島事業

經營上收支豫算ヲ立ツルコト左ノ如シ

(一) 支出ノ部

年別

摘要

金額

備考

四十一年

艦船五艘珊瑚採取船五艘製造費

四、七五〇円〇〇

新造

監督者三人漁夫二百二十人並ニ珊瑚採取者二十二人合計百四十人手当並ニ報酬金七ヶ月分

二一、〇二一・〇〇〇

新規雇入

家屋五百坪築造費

一五、〇〇〇・〇〇〇

樟樹及松其他雜木植付

四〇〇・〇〇〇

十萬、本年度二萬本ノ割

二二、四九一・〇〇〇

四十三年

艦船三艘珊瑚採取船五艘製造費

四一、六一一・〇〇〇

新造

剝製監督者三人外百五十人手当報酬金七ヶ月分

一八、〇〇〇・〇〇〇

築港岩石破碎千八百坪

三、〇〇〇・〇〇〇

五ヶ年繼續費一ヶ年分

九、六〇〇・〇〇〇

諸雜費

二一、三一二・〇〇〇

糧食費

一五、五七四・〇〇〇

交通費十二航海

二、五〇〇・〇〇〇

計

二八、九五九・〇〇〇

四十二年

艦船二艘珊瑚採取船五艘製造費

二八、九五九・〇〇〇

新造

監督者三人外漁夫並艦節製造者百五十四人珊瑚採取者四十人其手当並ニ報酬金

二八、九五九・〇〇〇

增員五十四人

四十四年

艦船五艘珊瑚採取船五艘製造費

四、七五〇・〇〇〇

新造

監督者三人漁夫二百二十人並ニ報酬金

四四、五四一・〇〇〇

監督者三人漁夫二百二十人手当並ニ報酬金

四四、五四一・〇〇〇

更ニ雇入

家屋増築費五百坪

一五、〇〇〇・〇〇〇

樟樹並松其他雜木植付

四〇〇・〇〇〇

剝製監督者三人製造者百五十人手当并ニ報酬金

二二、四九一・〇〇〇

築港繼續費

一八、〇〇〇・〇〇〇

諸雜費

三、〇〇〇・〇〇〇

糧食費

三三、二〇〇・〇〇〇

交通費十二航海

九、六〇〇・〇〇〇

計

一三三、一五〇・〇〇〇

監督者三人並ニ漁夫二百二十人珊瑚採取者六十人手当並ニ報酬金

四一、六一一・〇〇〇

樟樹並松其他雜木植付

四〇〇・〇〇〇

監督者三人剝製者百五十人手当并ニ報酬金

二二、四九一・〇〇〇

築港繼續費

一八、〇〇〇・〇〇〇

諸雜費

三、〇〇〇・〇〇〇

糧食費

三一、三九二・〇〇〇

交通費

九、六〇〇・〇〇〇

計

一二九、七三四・〇〇〇

監督者三人漁夫二百二十人並ニ報酬金

四四、五四一・〇〇〇

海產物

鳥肉肥料拾萬八千斤

計金拾萬六千四百四拾円

金六万円

金壹萬伍千五百円

金五千六千円

金四千八百六拾円

金壹萬五千円

計金拾伍萬四千百貳拾円

金拾參萬貳千六百円

金九万円

金壹萬伍千五百円

金五千六千円

金四千八百六拾円

金壹萬五千円

計金拾伍萬四千百貳拾円

金拾參萬貳千六百円

金九万円

金壹萬伍千五百円

金五千六千円

金四千八百六拾円

金壹萬五千円

計金拾伍萬四千百貳拾円

金拾參萬貳千六百円

金九万円

金壹萬伍千五百円

金五千六千円

金四千八百六拾円

金壹萬五千円

計金拾伍萬四千百貳拾円

金拾參萬貳千六百円

金九万円

金壹萬伍千五百円

金五千六千円

金四千八百六拾円

金壹萬五千円

計金拾伍萬四千百貳拾円

四十一年

金八萬八千四百円

艦船十艘十三萬六千斤

(二) 收入ノ部

十人珊瑚採取者八十八人手当並ニ報酬金

二十八

金參万円

金壹萬伍千五百円

金五千六千円

金四千八百八拾円

金壹萬五千円

計金拾萬六千四百四拾円

金拾參萬貳千六百円

金九万円

金壹萬伍千五百円

金五千六千円

金四千八百六拾円

金壹萬五千円

計金拾伍萬四千百貳拾円

金拾參萬貳千六百円

金九万円

金壹萬伍千五百円

金五千六千円

金四千八百六拾円

金壹萬五千円

計金拾伍萬四千百貳拾円

金拾參萬貳千六百円

金九万円

金壹萬伍千五百円

金五千六千円

金四千八百六拾円

金壹萬五千円

計金拾伍萬四千百貳拾円

四十四年 金拾七万六千八百円

艦船二十艘式拾七万式千斤

金拾貳万円

珊瑚船二十艘收入

金壹万五五百円

鳥毛壹万五千斤

金四千八百六拾円

鳥肉肥料拾万八千斤

金五万六千円

剝製鳥四拾万羽

金千六百八拾円

鳥油五百式拾五函

金壹万八千円

海産物

計金參拾八万七千八百四拾円

四十五年

金拾七万六千八百円 艦船二十艘式拾七万式千斤

金九万円

珊瑚船二十艘收入

金壹万五五百円

鳥毛壹万五千斤

金五万六千円

剝製鳥四拾万羽

金四千八百六拾円

鳥肉肥料拾万八千斤

金千六百八拾円

鳥油五百式拾五函

金式万円

海産物

計金參拾五万九千八百四拾円

二 本県官吏ノ列島視察

尖閣列島視察ノ為出張セシ本県官吏氏名及年月左ノ如シ

- 一 明治三十三年元八重山島野村道安管内視察トシテ出張セリ
- 一 本人ハ明治三十四年五月元本県技師熊倉工学士ノ出張ヲ乞ヒ設計其他ノ点ニツキ指導ヲ仰キ又同便ニテ本県土地整理事務局員数名渡航調査セリ
- 一 明治三十七年本県事務官岸本賀昌八重山島片書記中島謙次郎及ヒ元八重山島警察署長宮原景明ノ三人相前後シテ出張セリ

三、セキビ島ノ探検

右ト同一航海ニ於テセキビ島ヲ探検セリ此島尖閣列島ノ東北六十哩ヲ距ル地点ニ在リ探検ノ結果到底居住ニ適セサルヲ認メ之カ経営ヲ断念シ記念ノ為一標木ヲ樹立シテ帰航セリ此行宮島理学士黒岩師範教諭ノ同航アリシヲ以テ標木ノ文字ハ右両氏ノ染筆ヲ煩ハシ一ハ英文ヲ以テ他ハ邦文ヲ以テ標木ノ両面ニ之ヲ録セリ

四、沖ノ神島ノ探検及其ノ経営

沖ノ神島ハ東経百二十三度三十三分北緯二十四度十三分ニアル無人ノ一小孤嶋ナリ本人ハ往年実地探検ヲ試ミタルニ水禽群棲シ沿岸又海産物ニ豊富ナルヲ以テ画策宜シキヲ得ハ必ス有望ノ地タラント認メ直ニ拝借ノ許可ヲ請願シタルニ明治三十八年一月之カ許可ヲ得タリ而シテ目下同島ニハ出稼労働者二十三名監督二名ヲ派遣シテ之カ経営ニ着手セリ此島ニ於ケル一般ノ規模ハ凡テ尖閣列島ノ範ニ則ル方針ナリ此ノ島ニ於ケル事業経営ノ梗概ハ次項ニ記載セリ

一四 沖ノ神島事業梗概

沖ノ神島借用認可ヲ得タルハ明治三十八年一月ナリシモ当年ハ諸他ノ設計ニ多忙ナリシカ故ニ其ノ翌年乃チ明治三十九年三月ヨリ事業ニ着手セリ同島ハ八重山郡西表嶋ヲ距ルコト西方僅カニ七海里ニ過キサルヲ以テ伝馬船二艘列舟五艘ヲ以テ交通機関ニ充用セリ又同年七月廣運株式会社所有船球陽丸ヲ特派シ四十年八月更ニ汽船辰島丸ヲ派遣セリ本人ハ同島経営ニ着手以來日尚ホ浅ク此ノ間未タ投資ノミニシテ純益ナシト雖モ採取セシ産物ノ種類価格ハ左ノ如シ

種類	数量	単価	価額
水禽剝製	六万羽	壹羽拾四銭	八、四〇〇円〇〇〇

- 一 明治四十年九月本県技師大山勇吉情況視察ノ為出張セリ
- 一 明治四十年十月八重山警察署長内田輔松警部春田昂及ヒ本県堀内葉刺師出張セリ

一三 尖閣列島以外ノ無人島探検及其ノ経営

一、大東島ノ探検 無人島探検ヲ以テ国益トナスノ觀念ハ上記ノ尖閣列島ノミナラス本県下附近遠クハ南洋ノ無人島探検及経営ヲ試ムルヲ以テ本人カ最モ愉快トシ且邦家ニ対スル義務ヲ尽スノ最モ適當ナル事業トナスニ及ベリ則チ明治二十五年ニハ尖閣列島経営ノ余暇ヲ以テ沖繩開運株式会社所有船大有丸(五百四十噸)ヲ借入レ海産物採取ノ目的ヲ以テ漁夫四十五名ヲ随ヘ一ケ年ヲ支フヘキ糧食其ノ他ヲ用意シ大東島探検ニ向ヘリ此ノ島ハ那覇ヲ距ルコト東方約二百四十海里ノ洋中ニアル無人ノ島嶼ナリ此行天候不良行途ニ寄泊シテ往航十日ヲ費シ漸ク大東島ニ着スルコトヲ得タリ停船シテ探検ノ準備ニ著手セントシタルモ沿岸水深到ル処数百尋ニ及ビ錨ヲ投スルニ詮ナク亦波濤甚タ高ク船体ノ動揺止ム時アラサリシカ故ニ徒ニ漂泊スルコト一昼夜探検ノ結果同島ノ地勢到底海産物ノ採取ニ適セサルヲ以テ終ニ断念シテ帰航セリ

二、イキマ島ノ探検 万国地図ノ示ス所ニヨレハ宮古嶋ノ南東即チ東経百二十五度二十八分北緯二十四度二十三分ニ当リイキマ島アリ明治三十三年五月尖閣列島航行ノ途次本人ハ之カ探検ヲ試ミント欲シ汽船ヲ迂行セシメ右ノ地点ニ達シタリ折柄天気晴朗一朶ノ雲霧ノ展望ヲ遮キルモノナク探検上有利ノ一日ナリシト雖モ地点ヨリ約二十方哩以内ニハ一小島影ヲモ認ムルヲ能ハサリシヲ以テ更ニ遠ク附近ヲ探リシモ終ニ何等ノ得ル所アラサリキ

鳥肉肥料	壹万四千斤	壹斤四銭八厘	六七二・〇〇〇
鳥油	七十函	壹函參円式拾銭	二二四・〇〇〇
海産物			一、六〇〇・〇〇〇
合計			一〇、八九六・〇〇〇

一五 (附録) 難破船ノ救護

明治三十三年五月十三日台湾台北建昌街熊野商業株式会社支店長佐々木嘉十郎氏所有汽船備前丸(船長中田定吉噸数凡ソ八十噸)那覇宮古島ヲ經由シテ台湾基隆ヘ向ケ航行中強烈ナル風雨ニ会ヒ損傷ヲ被リ殊ニ海図ヲ風ニ奪ハレ為ニ針路ヲ失シ宮古島ヘ寄港スル能ハス数日間洋中ニ漂流ノ後漸ク釣魚島(一名和平山)ニ漂着セリ故ニ同島事務所ハ同船ニ対シ海図ヲ与ヘ出帆セシメタリ而シテ該船ニハ宮古島ニ上陸スヘキ船客三人(巡查一名普通客二名)アリシヲ本島ニ逗留セシメ便船ニテ同島ニ送還セリ

又明治三十五年五月十八日久場島(黄尾島)事務所背部ノ断崖ノ海岸ニ列舟一艘漂着セリ乗船者ハ宮古島ノ漁夫三名ニシテ一週間余漂流シ飢餓ニ迫リ何レモ疲労シテ歩行スル能ハス半死半生ノ状態ナリシヲ以テ本人ノ事務所ハ薬餌ヲ供給シ療養セシメ二ヶ月余滞留セシメシ後汽船仁寿丸ニ便乗シテ帰島セシメタリ

一六 (附録) 地図及写真(省略)

八重山蔵元記録資料写(抄)

六五 尖閣列島中御神島。(1)明治十五年二月那覇古賀辰四郎ハ其支店ヲ八重山ニ設置シ島民ノ漁業ヲ奨励スルト共ニ本業タル貝

類其他海産物ノ輸出ニ努力シタリ

- (2) 尖閣列島ハ八重山村宇登野城ニ所属シ東径百二十三度北緯二十五度ノ洋中ニアリ魚釣島(和平山) 黄尾島(久場島) 南北小島四箇ノ小島ヨリ成ル明治十七年古賀辰四郎氏探險シテ後労働者ヲ派遣シ鳥毛及海産物ノ採集ヲ始メタリ其種類ハ鳥毛ノ採集、鱧鱒、海參、貝類、鼈甲ノ採集トス

- (3) 明治十八年一月古賀氏ハ東径百二十三度三十三分北緯二十四度十三分ニアル無人島中御神島ハ水禽群集シ其上海産物モ豊富ナルヲ以テ拝借願ヲ知事ニ提出シテ許可セラレタリ翌十九年三月ヨリ許可セラレタル中御神島ノ事業経営ニ着手セリ明治廿九年中御神島ノ開拓願ヲ知事へ提出シタルニ同月中許可セラル
- (4) 明治三十年三月古賀氏ハ二艘ノ改良遠洋漁業船ヲ以テ石垣島ヨリ出稼人三十五名ト糧食其ノ他日用品ヲ搭載シテ尖閣列島ニ送りタリ

- (5) 明治卅一年五月古賀氏ハ大阪商船会社須摩丸ヲ借り入レ自ラ移民五十名ヲ引率シテ糧食日用品器具各種ノ材料等ヲ準備シテ渡航セリ而シテ永住的準備ニ着手シ家屋建築ヲナシ井戸ヲ掘リ原野ヲ拓キ甘蔗野菜ノ類ヲ栽培スル等専ラ航海杜絶ノ場合ノ災難ニ備フル設備ヲ整ヘテソレカラ那覇へ帰店セリ

- (6) 明治卅三年五月辰四郎氏ハ大阪商船会社汽船永康丸ニテ理学士官島幹之助氏ヲ始メ本県師範学校教諭黒岩恒氏ト共ニ久場島ニ赴キ大略左ノ如ク設計セラル

- (イ) 魚類魚介ノ濫獲ヲ戒メ繁殖法ヲ講ジ種族断絶ノ憂ナカラシムルコト

風ノ為メ悉ク破船セラレタルカ為メナリ) 尖閣列島ニ送りテ盛大ニ鯉魚ニ従事セシメタリ

- (12) 明治三十九年十一月中古賀氏ハ尖閣列島トノ交通運輸ヲ計ルタメ台湾總督府所有ノ汽船三浦丸(百四十五噸) ヲ購入シ辰島丸ト改称シタリ

- (13) 明治四十年辰四郎氏ハ尖閣列島ニ於テ珊瑚採集鳥糞ノ製造牧畜ノ業ニ従事セリ

- (14) 明治四十一年四月古賀氏ハ尖閣列島ニ於テ「アジサシ」其他海鳥ヲ罐詰ニ製造スルコトヲ始メタリ

- (15) 明治四十一年中古賀氏ハ同島ニ於テ燐礦鳥糞肥料ノ採掘願ヲ出シ漸次其ノ計画ヲ立テ採掘ニ従事セントス

- (16) 明治四十二年末古賀氏ガ尖閣列島ニ於ケル事業ヲ調査スルニ鳥毛ノ採集、水禽ノ剥製、鱧鱒、海參、貝類、鼈甲、鯉魚、植林、樟松杉椎桶類ノ栽培、開墾及穀菜ノ栽培、汽船ノ購入珊瑚採集、鳥糞ノ製造、牧畜養蚕、罐詰製造、燐礦鳥糞ノ採掘等ナリ

開墾地面積六十余町歩、移民九十九戸、移民二百四十八人開墾ノ地積ヲ戸数ニ割レハ一戸平均六反歩余一人二反四畝歩ノ平均ナリ

- (17) 古賀氏ガ経営セル中御神ハ明治四十二年末出稼労働者二十三名監督二名アリテ鳥毛及海産物ノ採集等ニ従事セリ明治四十二年末ニ於ケル調査ニヨレハ産物ノ種類及価格ハ左ノ如シ
水禽剥製六万羽(八千四百円) 肥料一万四千斤(六百七十二

- (イ) 家屋ヲ建テ移住者ノ安息ヲ図ルコト

- (ハ) 久場島ニハ飲料水タル泉水ナキタメ天水貯蓄用ノ貯槽(タンク)ヲ設クルコト

- (ニ) 船着場ノ安全ト海陸運輸ノ利便ヲ図ルタメ碇繋所ヲ築クコト

- (ホ) 道路ヲ開鑿シ兼ネテ汚穢物排除ノ方法其他衛生的設備ヲ講スルコト

- (7) 明治三十四年五月古賀氏ハ借入船仁寿丸ヲ尖閣列島ニ航海セシムルニ当リ果技師熊倉工學士ノ出張ヲ乞ヒ共ニ該島ニ赴キ同年八月マテ滞在シテ昨年設計セシ事業及諸般ノ改善ヲ計リ海鳥ノ卵及雛児ノ風浪ニ略奪セラル、ヲ擁護シ且ツ家屋漁船ノ安全ヲ図ル為メニ海岸ノ要所ニ防波堤ヲ築クコトヲ決シ漸ク竣工ヲ見ルニ至ル

- (8) 明治三十七年中古賀氏ハ尖閣列島ニ於テ水禽「アイサシ」「カツドリ」其他ノ雜禽ヲ剥製シ横浜神戸ノ外商ニ売り込ミタルニ望外ノ好評ヲ博シタリ
明治三十九年中輸出高二十余万羽
同 四十年中輸出高四十万羽

- (9) 明治卅八年古賀氏ハ初メテ鯉船三艘ヲ建造シ宮崎県下ノ漁夫及ヒ鯉節製造人数十名ヲ尖閣列島ニ送り鯉業ニ従事セシメタリ其年不幸ニシテ暴風ニ遭遇シテ三艘共ニ破壊セラル

- (10) 明治卅九年中古賀氏ハ台湾總督府附屬試験場ヨリ樟苗三万本ヲ購入シ魚釣島久場島ニ植付ケシニ發育良好ナリト云フ

- (11) 明治卅九年再ヒ鯉船五艘ヲ新造シ(先年建造セシ鯉船ハ暴

円) 鳥油七十函(百二十四円) 其他ノ海産物千六百円合計一万八百九十六円ナリト云フ目下ノ所損益計算ハ投資ノミニシテ純益ナシト云フ

※本資料は明治十二年から同四十二年までの沖縄石垣の蔵元資料(遠藤利三郎氏所蔵)を郷土史家の喜舎場永珣氏が昭和十三年一月二十日書写したものの一部である。なお「蔵元」は琉球王朝時代、宮古、八重山に設けられた行政庁のことである。